

開催都市プログラム

岡山イニシアティブ

「公民館（Community Learning Center）」運動で培ってきた「地域に立脚したESDの先進地域」としての国際的評価を生かし、「地域コミュニティ」を舞台とした各種ステークホルダープログラムを開催し、「岡山モデル」の世界発信力をさらに高めます。

- 世界をむすぶ
- 地域をむすぶ
- 多彩なステークホルダーをむすぶ
- 市民をむすぶ

愛知・名古屋イニシアティブ

愛・地球博（2005年）やCOP10（2010年）の開催都市としての経験を生かし、多彩な国際交流プログラムの形成や活力溢れた市民参加プログラムとユニークな企業連携活動を展開し、「最終年会合」の成功と「ESD先進都市」としての存在感を高めます。

「自然災害」「気候変動」「歴史文化遺産」「平和教育」「アジアと女性」など、テーマに即した関連イベントを縁のある全国各地で開催することを計画します。

「ESDの10年・世界の祭典」推進フォーラムでは、文部科学省が決定した「『国連持続可能な開発のための教育の10年』最終年会合」の2つの中心開催都市（愛知県・名古屋市／岡山市）を有機的に生かし、より多くの「主体」が「対話」と「交流」の機会と場を展開できる仕組みづくりを提案します。
また、2014年を「ESDイヤー」として全国的に取り組むこと、2014年・最終年会合の機会を生かして、「ESDウィーク」を継承・発展させることを提唱します。

国連大学RCEイニシアティブ

国内6つのRCE（Regional Centers of Expertise on Education for Sustainable Development：国連大学が全世界で認定し支援しているESDの地域拠点。現在日本にはRCE仙台広域圏、RCE横浜、RCE中部、RCE兵庫・神戸、RCE岡山、RCE北九州がある）がネットワークすることで生まれる相乗効果を、プロセスを共有しながら「2014年とそれ以降」に向けて形成し広げていきます。

スタートした連携プロジェクト

(i) イベントリー（活動目録）の制作／(ii) 国内RCEを紹介する冊子の出版／(iii) Webジャーナルの制作／(iv) 「RCEアワード」の企画

2014年に向けた事業（これまでのRCEの取り組みや成果の蓄積を有効活用しながら）

- ①「広める」：ESDウィーク（もしくは月間）を全国一斉で開催する。2年前イベント（2012年）と1年前イベント（2013年）として全国同時開催でイベントを行い、ESD周知を図る。
- ②「深める」：実践者が学びあい、交流する「学びあいフォーラム（仮称）」の開催。RCE以外の地域のESDを推進する実践者を招いて全国レベルのフォーラムを行う。

2014年会合での事業

岡山開催が決定した「第9回グローバルRCE会議」だけでなく、UNESCOの全体会合において「地域（Community）」や「地域間連携」を分科会のテーマとして取り入れてもらうことを働きかけ、そこでRCEとしての発信を行う。

NPO／NGOプログラム

市民社会に広くESDの輪を広げるために、企画準備や実施のプロセスを通じて以下のねらいが実現できるような事業を目指します。

- ①普及啓発：より多くの人にESDを共感してもらう
- ②活動充実：ESD推進の市民活動がさらにひろがる
- ③未来世代の参画：未来を担う子ども・ユースの参画が促進される

「異世代で描く未来」～未来を担う世代と共に考える2014年～

NPO/NGOはそれぞれテーマを持って活動しています。その中で特に子供が具体的に取り組みやすいテーマ・地域に根ざしたテーマや「社会の正義」などあらゆる課題の根源にあるテーマを設定し、子ども・ユースと大人が議論する事業（ワークショップ・スタディツアー・フォーラム）を企画します。

◆世界各国からユース世代が招かれる2014年の機会を生かすべく、様々な他事業とのリンクを考えます。また日本各地で開催されるプレイベントやポストイベントとも「地域キャンペーン」として連携し、「全体総括イベント」と盛り立てます。

◆プレイベントは、ITを活用して世界中の参加予定者との事前のコミュニケーションの機会として積極的に活用します。

◆ポストイベントは、MDGs（ミレニアム開発目標）等の様々な持続可能性プロジェクトにつなげます。それによって2014年に実施されるプロジェクトが「ポストESDの10年」のキックオフイベントとしての位置づけが明確化されることを目指します。

◆単なるイベントにとどまらず、地域の決定権者（首長など）が議論の場、報告の場の成果を受け止め、実際の地域や社会の変革につながるようなプロセスづくりをしっかりと行います。

地球市民会議の開催

2009年から先行的に開催してきた「地球市民会議」を、ESDを推進する多彩なステークホルダーの「対話」と「交流」の舞台としてさらに継続発展させ、民間主導の国際的なESD推進エンジンとなることを目指します。

サイバーネットワークプログラムの展開

多様な主体が発信する各種情報を「わかりやすく」「使いやすく」するための総合的な情報交流の仕組みと、「ESD情報」を教育現場で容易に活用できる仕組みの構築を目指します。

ユネスコスクールプログラム

ユネスコスクールの発展（「質」を伴った数の増加／地域の持続可能性につながり、ESD理念の実現に貢献するような在り様）のひとつの契機となるようにESDの10年最終年会合を推進します。2014年以降も持続的に発展していくそれぞれのユネスコスクールとユネスコスクール間の国内・国際的なネットワークを構築できるようなプロジェクトを「啓蒙機会や研修の提供」、「仕組みや制度の工夫」、「情報共有・発信・教材の工夫や活用」への取り組みを通じて目指します。

～2014年：「情報発信」力の強化

ユネスコスクールやESDの楽しさ、重要性、有用の度合いを十分に発信し、共有するために、ESDに関するフロー情報とストック情報をうまくつなぐようなインターネットツールを活用し、さまざまな世代の教員に訴える情報発信のあり方を探る。

2014年：「ユネスコスクール国際フォーラム」

国内外のユネスコスクールの教員と児童・生徒が集うフォーラムの開催。世界的なネットワークであるユネスコスクールの児童・生徒、教員が集い、議論することはESD発展のためのシンボリックな役割を負う。

2014年を超えて：「ESD宣言都市」

ユネスコスクールは地域課題解決に貢献する主体とならうことを、教育行政を超えてとらえ確認し市民啓発につなげるために、他のステークホルダーとの協働のもとに「ESD宣言都市」構想について議論を開始する。

CSR×ESDプログラム

- 持続可能な社会づくりを進める仲間として、「企業」の参加は不可欠。企業とマルチステークホルダーとがつながる機会を創造し、効果的な連携を生み出します。
- 「義務」や「責任」ではなく、「ポジティブな未来戦略」としてのESDを企業人へアピールします。

2014年に展開するプロジェクト案

- 1)「みんな（マルチステークホルダー）でつくるESD大賞」
社会、そして企業人自身が「いいね！」と思える「グッドプラクティス」の掘り起こしは重要。地域の課題などに対して、企業が参加した多様な協働体による取り組みを発掘・触発するための賞を設定し、地域予選を経て全国大会での審査で大賞を選ぶ。
- 2)企業がESD推進に参加しやすくなる環境を整備

①「ESDのじかん」
企業（トップ）の巻き込みや広報活動の一環。ユネスコスクールとの協働事業で、先進企業トップによる学校での企業の持続可能性への取り組み（グッドプラクティス）の紹介。子どもたちは、学びつつ、率直な感想をフィードバックする。

②「ESD1000人カフェ」
分野やセクターの縦割りを超えて、マルチステークホルダーによる全員参加の対話の場づくりを積み重ねる。ワールドカフェ手法を応用して、産官学・異業種の協働へのきっかけづくりを仕掛ける。

③ゆるキャラサミット@ESD
一般の人々や子どもたちへの訴求効果を狙い、もともと地域活性化の役割を担って人気でできた全国の「ゆるキャラ」たちに、「おらが国のESD自慢」をしてもらう「ゆるキャラサミット」を開催する。最後に、持続可能な社会や人づくりへの「宣言」を出す。